

平成30年度ふれあいトーク議事録(速川地区)

日時 平成30年11月12日(月) 19:00~20:32

場所 速川公民館

出席者 速川地区住民 27名

市長、企画政策部長、総務部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、消防長、
防災危機管理監、事務局6名

質問の内容	回答
<p>1 田江地区 男性 小窪地内の防火水槽について、本日の資料には、予算が1,000万円となっているが、地元負担金はどのくらいになるのか。</p>	<p>消防長 防火水槽の建設については、地元負担金はない。</p>
<p>2 同男性 田江地区でも防火水槽の要望を出しているが、順番が回ってこない。優先順位はどうなっているのか。田江は以前から要望を出している。</p>	<p>消防長 防火水槽に関する要望については、市内各地から挙がっており、消防的な見地から必要と思われる箇所から順に整備をしている。その際は、設置の緊急性や地元からの用地提供の有無等を総合的に判断し、順番を決めている。</p>
<p>3 同男性(消防長の回答を受けて) 11月3日の田江地区での住宅火災の際、消防車が何台も来ていたのに、上庄川から1本のホースでしか水を汲み上げていなかった。更にその水を分けて放水していたためか、放水の勢いが弱く、被害が拡大したように感じた。 田江地区は水の弁が悪いため、消火栓等が必要である。しかし今回の火事では消火栓は設置されていたが、設置場所が火災現場に隣接しており、危険で使用できていなかった。先ほども述べたが上庄川から汲み上げた水だけでは消火活動が不十分に感じた。是非とも防火水槽を設置して貰いたい。 以前に防火水槽用の土地を無償提供する旨を記載した要望書を提出しているのので、確認してもらいたい。</p>	<p>消防長 基本的な消火の方法として、周囲から放水するのが効果的である。1本のホースから2本に分けて包囲的に消火するのは、一般的な消火活動である。 要望書については確認させていただく。</p>
<p>4 男性 小中一貫校のスケジュールについて確認したい。2020年に開始ということではどうか。 保護者は以前から動向を気にしており、速川に住むか市街地に移るかといったことにも関連する。最終決定について、住民にわかりやすく説明してほしい。</p>	<p>教育次長 小中一貫校については、2020年度から授業を開始したいと考えている。スケジュールは、2018年度中に施設整備に関する実施設計、2019年度に工事着手、そして2020年度から新校舎での授業開始という流れである。</p>
<p>5 同男性 小学校3校が統合されることで、現在使われている校舎の跡地活用についても、統合と同時に考えていかなければいけないと思う。 速川地区としては、速川小学校の校舎をスポーツを楽しむ場所や公民館として、活用することが考えられる。現在、独立公民館があり贅沢は言えないが、校舎を公民館として利用できれば便利である。プールは統合後の小学校の授業で活用し、体育館は部活や地域住民のスポーツ場、職員室は公民館の事務所、ランチルームは地元野菜の直売所など、様々な活用方法が考えられる。 また先ほど名城大学農学部との連携事業の説明があったが、速川地区の農業に新しい風を吹かせてくれることを期待している。それに伴い校舎で、大学生が合宿をすることも考えられる。 速川小学校の跡地の活用方法については、速川地区住民の意見をまとめなくてはならないと思うが、市として活用案があれば教えてほしい。</p>	<p>教育次長 小学校の跡地の活用については、まずは地元でどのように活用していきたいか意見をまとめていただきたい。例えば明和小学校については、地元から野菜工場にできないかという意見があり、今後そのような施設の見学も予定している。 なお、速川小学校のプールについては、小中一貫校となった後も活用したいと考えている。 小中一貫校検討委員会からも速川地区の意向を伺いたいということをお願いをしているが、地区で方針が定まっていないということで、もう少し時間がほしいと伺っている。地区での方針がまとまり次第、市として活用案を検討していきたい。</p>

	質問の内容	回答
6	<p>男性 小中一貫校という聞こえは良いが、併設校との違いを教えてください。またメリット、デメリットについて、現時点で話せる範囲で教えてください。</p>	<p>教育次長 小中一貫校は、併設校と違い一人の校長のもと運営を行うことになる。そのため小学生から中学生まで一貫した教育方針のもとで学ぶことができる。小学生が中学校に進学した際に戸惑う「中一ギャップ」という言葉もあるが、そういったことも少なくなる。それ以外にも中学校の先生が小学生に授業を行うことができるメリットもある。 またカリキュラムに関しては、小1から中3までの9年間で「小1から小4を前期」「小5から中1を中期」「中2から中3を後期」と三期に分けることで、低学年からリーダーを務める経験を積むことができる等、低学年から様々な経験を積むことができ、健やかに、学力も十分付くというメリットがあるといわれている。</p>
7	<p>同男性 小中一貫校になると小学校の卒業証書の取り扱いはどうなるのか。</p>	<p>教育次長 小学校の卒業証書という形ではないが、ひとつの区切りとなるので、その代わりとなるものを出している先進事例がある。詳細は小中一貫校検討委員会の中で決めていくことになるが、小学校の卒業式に類するものが全くなるといったことではない。</p>
8	<p>同男性 本日の来場者のほとんどが60代、70代である。市長が今ほど説明していただいた内容を、将来ある若者に伝えていただきたい。 その取り組みとして、行政の施策などを住民ひとりひとりの人生の段階に応じた時期に、説明していただく機会を設ければ良いと思う。</p>	<p>市長 他地区のふれあいトークにおいても、「年代別に市からの支援内容を知ることが出来る、分りやすい資料があれば良い」といった意見をいただき、検討している。 地区でふれあいトークを開催すると生産組合長や地区の班長などに声がかかるため、皆さんのような年代の方が多く、また女性の参加者が少ないという状況にもなっている。 そのため子育て世代のお母さんを対象にしたふれあいトークを、11月20日に開催する予定としているほか、ぶり奨学プログラムの中で、首都圏等で交流会を開催し、氷見出身の若い人達に氷見に帰ってきたくなるような話もさせていただいている。</p>
9	<p>同男性 家庭においても地域においても子どもがいる喜びは大きい。地域に子どもがいない、学校に行っても子どもが少ないという現状は寂しい。子どもを育てる喜びを若者に伝えてほしい。 本日資料の中に合計特殊出生率について目標値1.9とあるが、どのような根拠でこの数字を目標とし、また達成するための支援・応援策等も教えていただきたい。</p>	<p>市長 この1.9という数字は、県全体の目標であり県で定めているものである。全国平均が1.8であるので、それを少し上回る数字ということで1.9にしたと聞いている。本市の合計特殊出生率は、20～30年かけて落ち込んできているので、目標年次までに達成するのは難しいが、0.1でも0.2でも上昇させたいと思っている。 子どもを産んでいただくためには、まず結婚をしてもらわないといけない。市でも盛んに婚活事業に取り組んでいるほか、今年からは、老人会のネットワークを活用して、男女のマッチングもしてもらっている。</p>

	質問の内容	回答
10	<p>男性</p> <p>今年も市内で原子力防災訓練が実施されていたが、現在、志賀原子力発電所は稼働していない。稼働してなくても放射性物質が放出される可能性はあるのか。</p>	<p>防災危機管理監</p> <p>使用済み核燃料が保管されていることから、放射性物質が放出される可能性はゼロではない。しかし現在、志賀原子力発電所は稼働していないため、放射性物質の放出事故が発生する可能性は、かなり低いと考えている。</p>
11	<p>同男性(防災危機管理監の回答を受けて)</p> <p>使用済み核燃料から放射性物質が空气中に放出するから危ないと言われるが、使用済み核燃料の冷却水が地下に浸みて放射性物質が海に流れるのではないか。そうであれば氷見市は関係ないと思う。</p> <p>原子力防災訓練の実施理由について、使用済み核燃料の放射性物質が空气中にばら撒かれるからという表現は、危険を煽るような感じがする。そうでなければ志賀原子力発電所が再稼働するような裏付けがあるのではないかと思ってしまう。本当に使用済み核燃料の放射性物質が空气中に放出される可能性はあるのか。</p>	<p>防災危機管理監</p> <p>原子力防災訓練については、放射性物質が放出される可能性がゼロではないため実施している。</p> <p>志賀原子力発電所の再稼働については、発電所地下の活断層について、原子力規制委員会の審査状況が前に進んでいない。その結論が出ない限り再稼働はない。</p>
12		<p>市長</p> <p>氷見市では北陸電力に対して、志賀町と同様の災害協定を結ぶようお願いをしているが、原子力発電所が稼働していないこともあり、未締結となっている。</p> <p>使用済み核燃料は通常時冷却されているが、地震等の影響で外部電源を喪失し水が供給されなくなると冷却されなくなってしまう。このような場合でも水が急激になくなり、放射性物質が空气中に放出されるということはほとんどない。しかし可能性はゼロではないということである。</p> <p>原子力防災訓練については、毎年、市内各地区順番に実施しており、来年度は速川地区で行われる予定である。現在、志賀原子力発電所は稼働していないが、訓練の実施にご協力賜りたい。</p>
13	<p>男性</p> <p>子どもが保育園に通っており、保育料を無償化していただき、大変助かっている。</p> <p>子育てをされた方にはわかっていただけたと思うが、子どもの具合が悪くなるのは夜である。しかし夜間休日対応の高岡市急患医療センターは、23時で診療が終了してしまう。その後は、緊急当番病院である厚生連高岡病院、済生会高岡病院、高岡市民病院のいずれかに電話してから診てもらうしかない。</p> <p>金沢医科大学氷見市民病院小児科で24時間の診療体制を設けてもらうことはできないか。子育て施策に力を入れているのであれば、市内に24時間の診療体制の小児科を設けていただきたい。そうすれば、より子育てしやすくなると思う。</p>	<p>市民部長</p> <p>全国的に小児科医は不足しており、高岡医療区においても小児科医が交代で高岡市急患医療センターの当番をしている。小児科医の不足については、市から国に要望しており、今後も引き続き要望していきたいと考えている。</p> <p>金沢医科大学氷見市民病院の小児科については、現在、担当医が1人であり通常の診察のみとなっている。頂いたご意見については、金沢医科大学氷見市民病院にも伝えたい。</p>
14	<p>同男性</p> <p>小中一貫校について、私は小中一貫校の検討委員会に参加させていただいており、2020年度の統合に基本的に賛成である。しかし小中一貫校となると、これまで行われていた地区の活動や運動会、文化祭等の行事がどうなっていくのかわからない。これらの行事についても、2020年度に一本化されるということであれば、保護者としては、もっと話し合いをする機会がほしい。</p> <p>統合後、最初の1年間は小中学校を別に運営し、移行期間にする等も考えられる。もう少し保護者の意見に耳を傾けてほしい。</p>	<p>教育次長</p> <p>統合後の運営について、市からの説明も不十分であると思うので、皆さまの意見も聞きながら進めていきたいと考えている。</p> <p>ただ、「統合当初は小中学校を別に運営してほしい」という意見もいただいているが、「できるだけ早く小中一貫校で運営してほしい」という意見もある。例えば統合当初、小中学校を別にし、その後小中一貫校とした場合、校歌をどのように扱うのかという問題も出てくる。</p> <p>いずれにしても皆さまの意見をしっかりと聞きながら進めていきたい。</p>

	質問の内容	回答
15	<p>男性 私の住んでいる集落は限界集落である。人口が減少し、地区では道路側溝の管理ができない現状である。そうすると排水が上手くいかず、通常より道路が傷み、市の予算が多くかかると思う。 市からシルバー人材センターなどに依頼し、道路や側溝の管理をしてもらえないか。地区では人がおらず、側溝も埋まったままになっている。</p>	<p>建設部長 他の地区でも人がいないため、草刈りや側溝の泥上げができないという声が聞かれる。シルバー人材センターに依頼とのお話であったが、市内の側溝の延長は相当であるため、全てを依頼することはできない。 現在、市では道路整備地域支援事業などの補助制度がある。ご活用いただき、できるだけ地区で対応いただきたい。</p>
16	<p>同男性 最近は災害が多くなっている。そのような場合に備え、迂回路を確保しておくことは重要であると思う。</p>	<p>建設部長 災害時には迂回路は重要である。皆さまが安心して生活ができるよう道路の維持管理に務めていきたい。</p>
17		<p>市長 今年の大雨で、市道岩瀬老谷線が陥没し通行止めとなってしまったが、林道があって迂回できたという状況があった。 道路が1本しかないで通行止めとなった際に孤立してしまう。迂回路を作っておくことは重要であるので、しっかりと頑張っていきたい。</p>
18		<p>地域振興課長 本日の資料に地域活力施設等整備支援事業が載っている。この事業は、市長が地域からのご意見をもとに、もっと地域に対して支援ができないかということのできた事業である。 本日いただいたご意見の中には、すぐに制度化できないものや制度の見直し、新設を検討しなければならないものもあるが、反映できるものから順次対応をしていきたい。</p>